

ワールドカップサッカー観戦記

本庁支部 鶴岡 哲也＊

昨年ワールドカップサッカーの決勝戦イタリア v s フランスを観戦するためドイツに行きました。大会中は、自分の好きなチームが決勝戦に残るよう必死の応援です。その結果か自分の好きなチームが決勝戦に残ったときは、大喜びでした。

いざ出発日、早朝4時起きだが、期待に胸が膨らみ、普段朝は弱いのにばっちり目が覚める。そして、身も心も軽く家を出たまでは良かったが、移動が飛行機で約14時間、その後バスで約8時間半もかかり、ホテルに着いたのが現地時間午前2時過ぎ、もうクタクタでした。

次の日、いよいよ試合の日。前日の疲れも全くなし。まず、昼12時にドイツ代表がサポーターに報告会をするという会場に行くが、既に物凄い数のサポーターが来ていて会場には入れず。がっかりしてその場を離れようとしたら、なんと目の前でドイツ代表の選手達がバスからホテルに入っているではないか。思いがけない幸運に感激。その後昼食をとり、いよいよ試合会場へ。会場前には既に両チームのサポーターが大勢いて、氣勢をあげている。両チームのサポーターと一緒に騒ぎ、写真撮影。いよいよだなーと実感。開場になり、席に着きふと横を見ると、1990年ワールドカップ優勝チーム西ドイツ（現ドイツ）代表のメンバーだったリトバルスキー（現アビスパ福岡監督）がいるではないか。恐る恐る近づき、サイン、写真をお願いすると快く応じてくれた。なんていい人だ。



いよいよ試合直前。会場は熱狂的雰囲気包まれている。試合前のセレモニーも終わり、選手入場。心臓がドキドキしている。好試合を期待しつつ、最終的にはフランスが優勝し、ジダンが有終の美を飾ることを願う。そしてキックオフ、物凄いフラッシュの数だ。開始7分フランスの選手がペナルティーエリア内で倒される。ちょうど真横の位置で見ていた僕は、その瞬間思わず叫んだ。「PK だー」。ジダンが見事なループシュートを決めた瞬間鳥肌が立った。しかし、喜びもつかの間19分イタリアがコーナーキックから同点。周りで歓声、悲鳴

があがる中、僕は呆然としていた。その後一進一退の攻防が続き、手に汗握りながら観戦。そして、延長戦に入りあの大事件が起こる。イタリアのマテラッツィが倒れている。ボールの行方を追っていた僕には、何が起こったか分からない。会場が騒然とする中ジダンにレッドカードが出される。まさかジダンが退場になるとは、僕は啞然とするしかなかった。その後試合は、イタリアがPK戦の末優勝。イタリアの優勝を祝福しつつも、ジダンの現役最後の試合が退場になり、寂しさを感じずにはいられなかった。

会場から帰るとき、決勝という最高の試合を楽しむことができた上、サッカーの本場ヨーロッパのサポーターの熱狂的雰囲気を感じることができたことに充足感を覚えました。これは、テレビでは感じることはできないものでした。機会があれば、また観戦に行きたいと思っています。

＊河川開発課調査係